

言語行為論による語気助詞の分析方法

—「吧ba」を例として—

蔣 家義

要 旨

語気助詞の特徴と分析方法の不備のため、語気助詞の意味の分析は難題になっていた。語気助詞そのものの特徴が分析方法の多様性をもたらしたが、新たな分析方法の検討により語気助詞の意味の解明が進むものと考えられる。本研究は「吧ba」を例として語気助詞の意味の分析方法を検討する。まず、語気助詞の先行研究における分析方法の問題点を述べる。そして、語気助詞の特徴に基づいて分析方法の検討を行い、言語行為論を理論的根拠とする分析方法を一つ提出する。その後「吧ba」を例としてこの分析方法の有効性を検討する。

キーワード：語気助詞 言語行為論 発語内効力 吧

1. はじめに

語気助詞の意味はいろいろに論じられているが、研究者の間に一致した意見がまだないのが実情である。胡（1988）が指摘したように、これには二つの原因がある。すなわち、語気助詞そのものの特徴と、分析方法の相違である。機能語としての語気助詞は独立して使われず、文の中に入ってはじめて意味を持つ。その使用と理解がほぼ完全に文脈に依存しており、意味の分析がかなり困難になっている。一方、研究者は異なる理論・分析方法に基づいて研究を行っているので、語気助詞の意味記述がなかなか一致しない。

語気助詞そのものの特徴が分析方法の多様性をもたらしているのであるが、語気助詞の「空靈的（捉えどころがない）」意味を究明するには、分析方法の検討が先行する必要がある。本研究⁽¹⁾は「吧ba」を例として語気助詞の意味の分析方法を検討する。

2. 先行研究の問題点と本研究の分析方法

2.1. 先行研究の問題点

ここでは先行研究における語気助詞の分析方法の問題点を述べる。先行研究の分析方法は様々であるが、問題点は二つの傾向として表れている。一つは語気助詞に過大な意味内容を与える傾向、もう一つは語気助詞に過小な意味内容を与える傾向である。

まず、語気助詞に過大な意味内容を与える傾向について分析する。語気は決して単語のレベルの概念ではなく、文のレベルの概念である。文の語気は単に一つの語気助詞によって決まるというわけではない。語気を表せる要素は語気助詞のほかに副詞、感嘆詞などもあり、イントネーション、文型などもある。文の意味と同じように、文の語気も語気助詞を含む各単語やイントネーションなどの要素の一種の相乗作用によって決まっている。語気助詞は文の語気を完全に決めることはできず、文の語気に一定の影響を与えるだけである。この点を十分に認識しないと、語気助詞の意味を分析する際、ほかの要素の語気への貢献を語気助詞に帰し、語気助詞に過大な意味内容を与えてしまう。さらに、一つの文が同時に二、三種類の語気を有することもあるので、この傾向がさらに助長されることになる。

これに対して、語気助詞に過小な意味内容を与えるという傾向もある。研究者は語気助詞の文の語気への貢献を最小限に評価しようとしたり、さらには語気助詞が語気を表すことを否定したりしようとする。一つの極端な例を挙げてこの傾向の問題点を説明する。孟（2005）は、語気助詞が語気を表すことを全面的に否定し、語気助詞の意味・機能を、文の（様々な）語気を「強化する」だけであると限定している。この説は語気助詞の個性を抹殺してしまう。例えば、もし語気助詞 A と B の機能が文の語気を強化するだけであるとすれば、A と B の相違は A が二種類の語気を強化し、B が三種類の語気を強化するということになる。さらに、もし A と B が同様に三種類の語気を強化するものとすれば、A と B は相違がなくなって取り替えて使ってよいことになる。しかしながら語気助詞の間には確かに著しい相違が存在するのである。

こうした先行研究における二つの傾向の発生は、語気助詞そのものの特徴に起因している。本研究は、語気助詞の特徴に基づいて分析方法の検討を行う。

2.2. 本研究の基本的立場と分析方法

先行研究の分析方法の問題点を述べたが、ここでは本研究の基本的立場と分析方法を説明する。まず、語気助詞の特徴について論じる。①機能語としての語気助詞は独立して使われず、文の中に入ってはじめて意味を持つ。②語気助詞の意味の分析はほぼ完全に文脈に依存する。③語気を表せるものは語気助詞のほかにいろいろある。④語気は文のレベルの概念であり、文の意味内容の一部である。⑤文の語気は語気助

詞を含む各単語やイントネーションなどの要素の一種の相乗作用によって決まる。⑥語気助詞は文の語気を完全に決めることはできず、ある程度文の語気に影響を与えるだけである。⑦一つの文の語気はいつも一種類だけあるというわけではない。⑧ほとんどの語気助詞は実詞から文法化を経て機能語になった。そのため、語気助詞の意味は語源実詞の特徴をある程度保有している。⑨語気助詞の分布、共起などの分析が語気助詞の意味の究明をいっそう精密にする。

①～⑨に示したように、語気助詞の特徴は統語的・意味的・語用的な平面を横断し、その意味の分析は語用論・意味論・統語論・形態論などの諸領域に関連している。したがって、語気助詞の意味の分析については、意味論と語用論などの諸領域を対象とした、しかも諸領域を一つの枠内に置いて体系的に分析することのできる、精密で体系的な言語理論（本研究においては、言語行為論を使う）に基づいて方法が検討されるべきである。①②④⑤⑦⑨に示したように、語気助詞の意味は完全に文に依存する。そのため、文の意味を分析することが語気助詞の分析の出発点となるべきであると考えられる。

このような立場を取る本研究は、次の分析方法を用いる。まず、文の意味を分析することから始め、語気助詞を用いた文の意味のタイプを分類する。そして、言語行為論によって、各タイプの意味を持つ文を一つの枠内に置きつつ、その統語的・意味的・語用的特質を階層的かつ体系的に分析する。すなわち、各タイプの意味を持つ文の発語内効力（発語内目的、達成の様式、命題内容条件、予備条件、誠実条件、強さの度合いの六つの構成要素より成る）を要素ごとに分析する。その後、文の各要素、特に語気助詞が当該の文の意味に与えた影響を詳細に分析する。すなわち、語気助詞がどのように発語内効力（の六つの構成要素）の表現に関わっているのか、ということ进行分析する。最後に、各タイプの意味を持つ文における語気助詞の共通性と相違性を分析し、語気助詞の意味への帰納を行う。

次にこの分析方法における言語理論としての言語行為論の基本概念を説明する。

3. 言語行為論の基本概念

言語行為論を構築し、主要な主張をなしてきたのは Austin、Searle、Vanderveken の三者である。本研究における言語行為論は主として Vanderveken の理論に依拠している。ここでは Vanderveken の基本的概念を紹介する。本研究の立場から一部修正を加えた部分があるが、それは明記する。Austin と Searle の理論については、Austin (1962)、Levinson (1983)、Mey (2001)、Searle (1969、1979) などがある。

発語内効力の構成要素：Vanderveken (1990) は、基本的発語内行為は発語内効力 F と命題内容 P によって構成された F (P) の論理形式を取り、発語内効力は発語

内目的、達成の様式、命題内容条件、予備条件、誠実条件、強さの度合い、の六つの構成要素から構成されると規定している。

発語内目的：発語内効力 F の発語内目的はその発語内効力を持つ何がしかの発語内行為が首尾よく遂行される場合に、命題内容に対して必然的に達成される目的である。次の五つの基本的発語内目的がある。

言明の発語内目的：一つの事態の有様を現実のものとして表す。

行為拘束の発語内目的：これから先の一連の行動に話し手自らを拘束する。

行為指示の発語内目的：話し手が聞き手に何がしかの事をさせようと企てる。

宣言の発語内目的：話し手はその行為を遂行しているものとして自らを表すことによって、一つの事態の有様を発生させるような行為を遂行する。

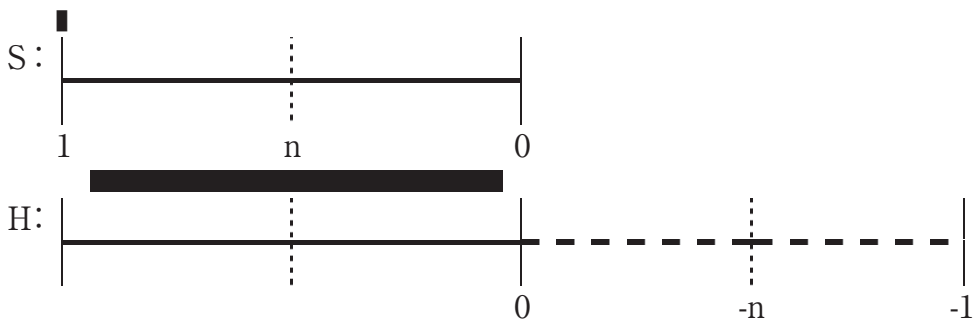
感情表現の発語内目的：事態の有様に関する話し手の命題態度を表現する。

達成の様式：発語内目的は我々の行動のたいていの目的と同じように、様々なやり方で達成できる。達成の様式は発語内行為が首尾よく遂行される場合に、その発語内目的が命題内容に対してどのように達成されなければならないかを決定する。達成の様式の重要な種類には、話し手の態度、話し手の立場、聞き手の立場、発語媒介的意図、発話する時の行事、発話する時の仕草・動作・振る舞い、形式度などがある。

命題内容条件：命題内容条件は発話の文脈において発語内効力を持つ行為の命題内容と見なせる命題の集合に課す条件である。命題内容とは発語内行為を構成する命題の意味内容のことである。言語行為論では「文の内包としての命題とならぶ命題のもう一つの側面（概念的思考の内容）として命題内容を捉えている」。

本研究では命題内容の種類を事態の有様、行為という二種類に分けておく。この事態の有様、行為という二種類の命題内容はさらに下位分類することができる。命題内容条件も様々な尺度によって記述することができる。事態の有様という種類の命題内容の条件を図1で表示することを筆者は提案する。

〔図1〕 事態の有様と命題内容条件



軸 S と軸 H はそれぞれ話し手と命題内容との関係、話し手が想定している聞き手と命題内容との関係を表す。軸上の 0 は話し手または聞き手が命題内容に対して不確実な心的状態を持っているという場合、1 は話し手または聞き手が命題内容に対して

確実な心的状態を持っているという場合を表す。軸 H の - 1 は聞き手が命題内容に対して確実な心的状態を持っているが、話し手の命題態度に対して否定的な命題態度を持っているという場合を表す。1 または - 1 と 0 との間は話し手または聞き手が命題内容に対してある程度の確実な心的状態を持っているという場合を表す。n の左側の部分が話し手または聞き手の情報のなわ張りであり、この部分において話し手または聞き手が命題内容に対して高い程度の確実な心的状態を持っている。n の右側の部分が話し手または聞き手の情報のなわ張りの外であり、この部分において話し手または聞き手が命題内容に対して低い程度の確実な心的状態を持っている。また軸 H の - n の右側の部分が聞き手の情報のなわ張りであり、左側の部分が聞き手の情報のなわ張りの外である。聞き手のなわ張りには二つの領域がある。

予備条件：予備条件は話し手が一つの可能な発話の文脈においてその発語内効力を持つ行為を遂行する時にどの命題を前提とするかを決定する。

誠実条件：話し手は発語内行為を遂行することによって、その命題内容によって表される事態の有様に関する一定の心的状態の様式を表現する。誠実条件は話し手が発語内行為を誠実に遂行するならば、彼の抱いているであろう特別な心的状態の様式を決定する。

強さの度合い：誠実条件の構成要素となる心的状態は発語内効力に依存する形で、異なる強さの度合いによって表現される。

発語内効力の表し方：発語内効力（の六つの構成要素）が発語内効力標識によって自然言語において表現され、命題内容が節によって表現される。一般的に、文の種類、動詞のムードなどが発語内目的を表現し、副詞表現などが達成の様式を表現し、節の文法形式に課せられる統語的制約が命題内容条件を表現し、音調曲線、副詞表現などが強さの度合いを表現し、そして様々な統語特徴が予備条件と誠実条件を表現する。

4. 「吧ba」の意味の分析

4.1. 「吧ba」の文の意味

ここから「吧ba」を例として、上述の語気助詞の意味の分析方法を示す。まず、「吧ba」を用いた文の意味を分析し、文の意味のタイプを分類する。「吧ba」の意味に関する先行研究とコーパスの分析に基づいて、文末の用法を持つ「吧ba」の文の意味を十三種類に分けることができた。以下にこれを示す。

命令：話し手がやや柔らかい語調で、聞き手に対して、ある行為を遂行するように言い付ける。文末のイントネーションは低く、緩やかである。

(1) 用你那笨脑袋瓜子、好好想想吧。(お前の頭を使って、よく考えろ。)

(老舍『鼓書芸人』)

依頼：話し手が聞き手に対して、拒否の選択権を与えながら、ある行為の遂行を求める。文末のイントネーションはやや低い。

(2) 老师，让我去吧！（先生、私に行かせてください。）（劉・潘・故（2001））

勧誘：話し手が聞き手に対して、話し手のこれから先の遂行しようとする行為と一緒に遂行するように求める。文末のイントネーションはやや低い。

(3) 你和我一起去她那里吧！（一緒に彼女のところに行きましょう！）

（彭荊風『緑月亮』）

許可：話し手が聞き手に対して、聞き手の欲している行為の遂行を許す。文末のイントネーションはやや低い。

(4) 她不再拦牧乾，而低声的说：“好，你走吧。你若是受不了，就策紧回来，我等着你！”（彼女は牧乾を止めずに、小さな声で言った。「行ってもいいよ。堪えられなかったら、早く帰ってきなさい。待っているよ。」）

（老舍『蛻』）

申し出：話し手が聞き手に対して、聞き手に関係がある行為を遂行しようとする意志を表す。文末のイントネーションはやや低い。

(5) 平海燕：我陪您到医院去看看吧？（平海燕：私はあなたに付き添って病院へ行きましょうか？）

王仁利：不用！不用！（王仁利：結構です、結構です。）（老舍『全家福』）

提案：話し手が聞き手に対して、ある問題の解決策を提案する。文末のイントネーションはやや低い。

(6) 王掌柜，孝敬老总们点茶钱，请他们到别处喝去吧！（王主人、兵士さまに茶代を差し上げて、ほかのところへ行って飲んでもらいましょう。）

（老舍『茶館』）

同意：話し手が聞き手に対して、ある意見・希望などを承知・同意するということを言明する。文末のイントネーションは下降調である。

(7) 好，明天出发吧。（よろしい。あす出発しましょう。）（劉・潘・故（2001））

意志：話し手が聞き手に対して、これから先のある行為を遂行しようとする意志を表す。文末のイントネーションはやや低い。

(8) 好，我就说这天的事吧……（あの日の事を話しましょう。）

（馮驥才『一百個人的十年』）

推量：話し手が、推量などの心的行為の対象に対して、ある程度の確実な心的状態を持ち、推量などの心的行為の結果を相手に表す。文中には、「可能（たぶん）」、「也许（もしかしたら）」、「大概（おおよそ）」、「一定（きっと）」などの副詞が使われることが多い。文末のイントネーションはやや低い。

(9) 也许檀柘夫人说我们送给他们的宝石，正指的是这两个人吧。（檀柘夫人は我々が彼らに宝石を送ったと言っている。もしかしたらこの2人を指しているのだろう。）

(楊朔『寶石』)

婉曲：話し手が、推量などの心的行為の対象に対して、確実な心的状態を持つが、主張を控えめにするために、推量などの心的行為の結果を婉曲に表す。文末のイントネーションはやや低い。

(10) 一个人，恋恋于自己的字句与思想，不免流于恹吝，但也是常情吧！(自分のことばと思いに恋々とすると、どうしても吝嗇になってしまう。が、これも人情の常だろう。)(張愛玲『走！走到楼上去』)

確認：話し手が、推量などの心的行為の対象に対して、ある程度の確実な心的状態を持つが、推量などの心的行為の結果の妥当性が聞き手に依存するので、当該の結果の妥当性について聞き手に確認を求める。文末のイントネーションはやや低い。

(11) 这些油印课本又是你老余的杰作吧？(これらのガリ版の教科書もまた余さんの傑作だろう？)(劉醒竜『鳳凰琴』)

同意要請：話し手が、推量などの心的行為の対象に対して、ある程度の確実、あるいは確実な心的状態を持つが、聞き手に同意を求める。文末のイントネーションはやや低い。

(12) “刘顺明恢复原任怕不合适吧？”赵航宇慢条斯理地说，“他是被公开逮捕抓走的。”(趙航宇はゆっくりと言った。「劉順明の復職は、適切ではないだろう。おおっぴらに逮捕されたんだから。」)

(王朔『千万别把我当人』)

非難：話し手が、非難の意を含んで、ある事柄について聞き手の認識状態を確認したり聞き手の認識の形成を強く要請したりする。文末のイントネーションはやや低い。

(13) 总不能上人家公司里去抢吧？(会社に奪い取りに行くことなんかできないだろう。)(談歌『城市警察』)

4.2. 「吧ba」の文の発語内効力の分析

「吧ba」を用いた文の意味を分析して文の意味のタイプを分類してきた。次に、言語行為論によって各タイプの意味を持つ文の発語内効力を一つずつ分析する。本研究での「吧ba」の文は主として「節+「吧ba」+イントネーション」という形式を取る文である。すなわち「吧ba」とイントネーションが発語内効力標識であると規定している。

「吧ba」命令の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】中立的な達成の様式。【命題内容条件】命題内容が聞き手のこれから先の一連の行動を表す。【予備条件】聞き手がその行動を実行することができる。【誠実条件】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」依頼の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】聞き手に拒否の選択権を与える。【命題内容条件】命題内容が聞き手のこれから先の一連の行動を表す。【予備条件】聞き手はその行動を実行することができる。【誠実条件】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」勧誘の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】聞き手に拒否の選択権を与える。【命題内容条件】命題内容が聞き手と話し手のこれから先の一連の共同の行動を表す。【予備条件】聞き手と話し手はその共同の行動を実行することができる。【誠実条件1】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【誠実条件2】話し手はその行動を実行する意図がある。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」許可の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式1】聞き手に拒否の選択権を与える。【達成の様式2】話し手が命題内容の表す行為の遂行の可否を決めることができる立場にいる。【命題内容条件1】命題内容が聞き手のこれから先の一連の行動を表す。【命題内容条件2】命題内容の表す行為が聞き手の欲している行為である。【予備条件1】聞き手はその行動を実行することができる。【予備条件2】聞き手はその行動を実行することを欲している。【誠実条件】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」申し出の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】聞き手に拒否の選択権を与える。【命題内容条件1】命題内容が、最初の話し手に話し手の問いに対する正しい答えを与えると考えられるような、聞き手のこれから先の行動を表す。【命題内容条件2】命題内容が話し手のこれから先の一連の行動を表す。【予備条件1】聞き手はその行動を実行することができる。【予備条件2】命題内容が聞き手にとって良い事柄である。【予備条件3】話し手はその行動を実行することができる。【誠実条件1】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【誠実条件2】話し手はその行動を実行する意図がある。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」提案の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】聞き手に拒否の選択権を与える。【命題内容条件】命題内容が聞き手のこれから先の一連の行動を表す。【予備条件1】聞き手はその行動を実行することができる。【予備条件2】命題内容が聞き手にとって良い事柄、あるいは検討中の問題の解決策になりうる事柄である。【誠実条件】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」同意の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】話し手が命題内容の表す行為の遂行の可否をある程度決めることができる立場

にいる。【命題内容条件】命題内容がしばしば聞き手と話し手のこれから先の一連の共同の行動を表す。【予備条件1】聞き手と話し手はその共同の行動を実行することができる。【予備条件2】命題内容が聞き手などによって前もって提案されたものである。【誠実条件1】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【誠実条件2】話し手がその命題内容を承知・同意するという気持ちを抱いている。【強さの度合い】弱い強さの度合い。

「吧ba」意志の文の発語内効力：【発語内目的】行為拘束の発語内目的。【達成の様式】中立的な達成の様式。【命題内容条件】命題内容が話し手のこれから先の一連の行動を表す。【予備条件】話し手はその行動を実行することができる。【誠実条件】話し手はその行動を実行する意図がある。【強さの度合い】中立的な強さの度合い。

「吧ba」推量の文の発語内効力：【発語内目的】言明の発語内目的。【達成の様式】中立的な達成の様式。【命題内容条件1】命題内容によって表される事態の有様は話し手がそれに対して低い程度の確実な心的状態を持っているものである。【命題内容条件2】命題内容によって表される事態の有様は話し手が、聞き手がそれに対して低い程度の確実な心的状態または不確実な心的状態を持っていると想定しているものである。図2で表すことができる。

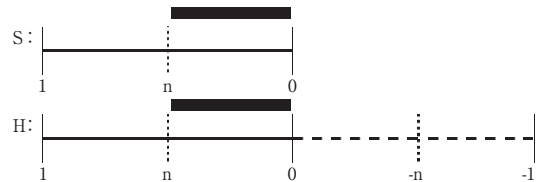
【予備条件】話し手が命題内容の真理値に対して低い程度の確実な信念を持つための理由や証拠を持っている。

【誠実条件】話し手が命題内容に対して低い程度の確実な信念を持っている。【強さの度合い】弱い強さの度合い。強さの度合いは「可能（たぶん）」、「也许（もしかしたら）」、「大概（おおよそ）」、「一定（きっと）」などの副詞によって増加したり減少したりする。

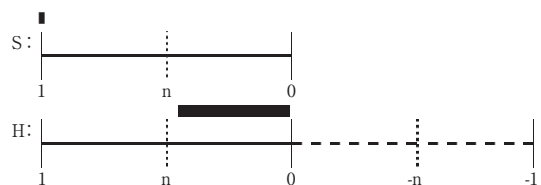
「吧ba」婉曲の文の発語内効力：【発語内目的】言明の発語内目的。【達成の様式】聞き手に、話し手が命題内容によって表される事態の有様に対して確実な信念を持っていない、などと思わせるという発語媒介的意図で遂行される行為である。【命題内容条件1】命題内容によって表される事態の有様は話し手がそれに対して確実な心的状態を持っているものである。【命題内容条件2】命題内容によって表される事態の有様は話し手が、聞き手がそれに対して低い程度の確実な心的状態または不確実な心的状態を持っていると想定しているものである。図3で表すことができる。

【予備条件1】話し手が命題内容の真理値に対して確実な信念を持つための理由や証拠を

【図2】「吧ba」推量の文の発語内効力と命題内容条件



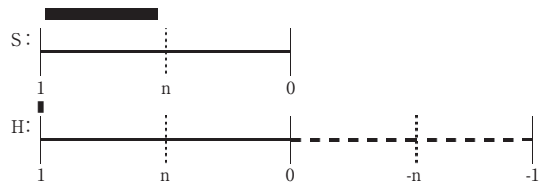
【図3】「吧ba」婉曲の文の発語内効力と命題内容条件



持っている。【予備条件2】発話の文脈において格別に話し手が丁寧さを保つ必要がある。この予備条件は達成の様式と相互に関連して働く。【誠実条件】話し手が命題内容に対して確実な信念を持っている。【強さの度合い】中立的な強さの度合い。

「吧ba」確認の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式】聞き手に拒否の選択権を与える。【命題内容条件1】命題内容が、最初の話し手に話し手の問いに対する正しい答えを与えると考えられるような、聞き手のこれから先の行動を表す。【命題内容条件2】命題内容によって表される事態の有様は話し手がそれに対して高い程度の確実な心的状態を持っているものである。【命題内容条件3】命題内容によって表される事態の有様は話し手が、聞き手がそれに対して確実な心的状態を持っていると想定しているものである。図4で表すことができる。【予備条件1】聞き手がその行動を実行することができる。

【図4】「吧ba」確認の文の発語内効力と命題内容条件

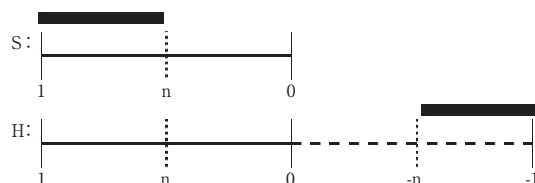


【予備条件2】話し手が命題内容の真理値に対して高い程度の確実な信念を持つための理由や証拠を持っている。【予備条件3】聞き手が命題内容の真理値に対して確実な信念を持つための十分な理由や証拠を持っている（言い換えれば、聞き手が命題内容の真偽を判断することができるという立場にいる）。【誠実条件1】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【誠実条件2】話し手が命題内容に対して高い程度の確実な信念を持っている。【強さの度合い】中立的な強さの度合い。

「吧ba」同意要請の文の発語内効力：【発語内目的】行為指示の発語内目的。【達成の様式1】聞き手に拒否の選択権を与える。【達成の様式2】話し手が聞き手に話し手の意見や認識を受け入れさせようとするという発語媒介的意図で遂行される行為である。【命題内容条件1】命題内容が、最初の話し手に話し手の問いに対する正しい答えを与えると考えられるような、聞き手のこれから先の行動を表す。【命題内容条件2】命題内容によって表される事態の有様は話し手がそれに対して確実な心的状態または高い程度の確実な心的状態を持っているものである。【命題内容条件3】命題内容によって表される事態の有様は話し手が、聞き手がそれに対して確実な心的状態または高い程度の確実な心的状態

を持っているが、話し手の命題態度と否定的な命題態度を持っていると想定しているものである。図5で表すことができる。【予備条件1】聞き手がその行動を実行することができる。【予備条件2】話し手が命題内容

【図5】「吧ba」同意要請の文の発語内効力と命題内容条件

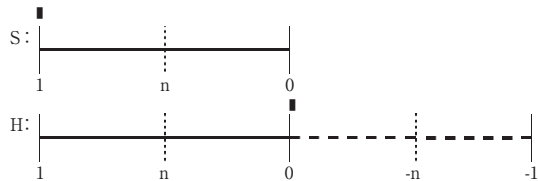


の真理値に対して確実な信念または高い程度の確実な信念を持つための理由や証拠を持っている。【予備条件3】聞き手が話し手と意見や認識が違っている。【誠実条件1】話し手が聞き手にその行動を実行させたいと願ったり望んだりする。【誠実条件2】話し手が命題内容に対して高い程度の確実な信念または確実な信念を持っている。【強さの度合い】中立的な強さの度合い。

「吧ba」非難の文の発語内効力：【発語内目的】言明の発語内目的。【達成の様式】話し手が非難を込めてある物事を聞き手に認識させようとするという発語媒介的意図で遂行される行為である。【命題内容条件1】命題内容によって表される事態の有様は話し手がそれに対して確実な心的状態を持っているものである。【命題内容条件2】命題内容によって表される事態の有様は話し手が、聞き手がそれに対して不確実な心的状態を持っていると想定しているものである。図6で表すことができる。

【図6】「吧ba」非難の文の発語内効力と命題内容条件

【予備条件1】話し手が、聞き手が命題内容を（充分に）認識していないが、認識することができるはずだと判断している。【予備条件2】話し手が命題内容の真理値に対して確実な信念を持つための理由や証拠を持っている。



【誠実条件1】話し手が命題内容に対して確実な信念を持っている。【誠実条件2】話し手が聞き手に非難の気持ちを持っている。【強さの度合い】強い強さの度合い。

4.3. 「吧ba」の意味

各タイプの意味を持つ「吧ba」の文の発語内効力の分析に基づいて、「吧ba」が文の意味に与えた貢献を詳細に分析する。すなわち、「吧ba」がどのように発語内効力（の六つの構成要素）を表すのか、ということ进行分析する。その後、「吧ba」の共通性と相違性を分析し、「吧ba」の意味への帰納を行う。

「吧ba」命令の文の発語内効力における「吧ba」は【強さの度合い】を表す。「吧ba」依頼の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式】と【強さの度合い】を表す。「吧ba」勧誘の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式】と【強さの度合い】を表す。「吧ba」許可の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式1】と【強さの度合い】を表す。「吧ba」申し出の文の発語内効力における「吧ba」は【強さの度合い】を表す。「吧ba」提案の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式】と【強さの度合い】を表す。「吧ba」同意の文の発語内効力における「吧ba」は【誠実条件2】と【強さの度合い】を表す。「吧ba」意志の文の発語内効力における「吧ba」は【誠実条件】と【強さの度合い】を表す。「吧ba」推量の文の発語

内効力における「吧ba」は【予備条件】と【誠実条件】を表す。「吧ba」婉曲の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式】と【予備条件2】を表す。「吧ba」確認の文の発語内効力における「吧ba」は【予備条件2】と【誠実条件2】を表す。「吧ba」同意要請の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式2】と【予備条件3】を表す。【予備条件2】と【誠実条件2】をも表す。「吧ba」非難の文の発語内効力における「吧ba」は【達成の様式】、【予備条件1】と【誠実条件2】を表す。

上述の分析から見れば、形式「節+「吧ba」+イントネーション」を取る文における「吧ba」は一つの発語内効力標識として発語内効力の各構成要素を表す。そのうち「吧ba」推量、「吧ba」婉曲、「吧ba」確認、「吧ba」同意要請、「吧ba」非難の文の発語内効力における「吧ba」は主として誠実条件、達成の様式と予備条件を表す。ほかの文の発語内効力における「吧ba」は主として達成の様式と強さの度合いを表す。

ちなみに次のことも分かる。一つの単語・句・節・統語的特徴は発語内効力の一つの構成要素だけを表すこともあるが、複数の構成要素を表すのが普通である。一方、発語内効力の一つの構成要素は一つの単語・句・節・統語的特徴によって表されることもあるが、複数の単語・句・節・統語的特徴によって表されるのが普通である。また、一つの単語・句・節・統語的特徴は発語内効力の複数の構成要素を表すこともできるが、一般的に本務として特定の一つの構成要素を表す。一方、発語内効力の一つの構成要素は複数の単語・句・節・統語的特徴によって表されることもあるが、一般的にそのうち特定の一つの単語・句・節・統語的特徴が最も重要である。そのため、上述の分析結果は「吧ba」の本務としての意味・機能であるが、曖昧と見られる部分もある。

5. まとめ

従来、語気助詞の特徴と分析方法の不備が原因で、語気助詞の意味の分析は難題であった。語気助詞の特徴が分析方法の多様性をもたらしたが、新たな分析方法の検討が語気助詞の意味の解明を進める可能性がある。本研究は「吧ba」を例として語気助詞の意味の分析方法を一つ提案した。すなわち、「まず、文の意味の分析を分析の起点とし、語気助詞を用いた文の意味のタイプを分類する。そして、言語行為論によって、各タイプの意味を持つ文の発語内効力（の六つの構成要素）を一つずつ分析する。その後、語気助詞がどのように発語内効力（の六つの構成要素）を表すのか、ということ进行分析する。最後に、各タイプの意味を持つ文における語気助詞の共通性と相違性を分析し、語気助詞の意味への帰納を行う」という分析方法である。

この分析方法のメリットは、次のように五点ほど挙げることができる。第一に、語気助詞そのものの特徴が十分に重視される。第二に、語気助詞の分析の起点としての、

語気助詞を用いた文の意味が十分に重視される。第三に、言語行為論によって、語気助詞を用いた文の意味を一つの枠内に置きながら、統語的・意味的・語用的な平面を階層的で体系的に分析することができる。第四に、語気助詞が文の意味に与えた貢献、すなわち語気助詞の意味を精密に分析することができる。第五に、一つの語気助詞、あるいは複数の語気助詞の間の共通性と相違性の分析に極めて役立つ。

- (1) 本研究は、2006年7月杏林大学大学院国際協力研究科に提出した修士論文「ダロウと『吧ba』の対照研究—言語行為論の立場から—」に基づいて書いたものである。当該の論文も参考にされたい。

<参考文献>

- 神尾昭雄 1990『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析』大修館書店
 神尾昭雄 2002『統・情報のなわ張り理論』大修館書店
 久保進 1999「日本語の発語内効力命名動詞の研究—発語内効力命名動詞辞典のモデルの作成—」
 『松山大学総合研究所所報 第28号』1999 松山大学総合研究所
 胡明揚 1981「北京話的語気助詞和嘆詞 上」『中国語文』1981-5 商務印書館
 胡明揚 1981「北京話的語気助詞和嘆詞 下」『中国語文』1981-6 商務印書館
 胡明揚 1988「語気助詞的語気意義」『漢語学習』1988-6 延辺大学
 朱徳熙 1982『語法講義』商務印書館
 齊滬揚 2002『語気詞与語気系統』安徽教育出版社
 曹大峰 2000「認識モダリテイの日中対照例—「だろウ」と「吧 (ba)」—」『認識のモダリテイとその周辺—日本語・英語・中国語の場合—』凡人社
 丁声樹 他 1961『現代漢語語法講話』商務印書館
 孟子敏 2005「句末語気助詞“也”的意義及其流变」『語言教学与研究』2005-3 北京語言文化大学
 陸儉明 1984「關於現代漢語里的疑問語気詞」『中国語文』1984-5 商務印書館
 劉月華・潘文娛・故イ 2001『实用現代漢語語法 (増訂本)』商務印書館
 Austin, J. L. 1962 *How to Do Things with Words*. Oxford University Press.
 Levinson, Stephen C. 1983 *Pragmatics*. Cambridge University Press.
 Mey, Jacob L. 2001 *Pragmatics: An Introduction* Blackwell Publishers.
 Searle, John R. 1969 *Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language* Cambridge University Press.
 Searle, John R. 1979 *Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech Acts* Cambridge University Press.
 Vanderveken, D. 1990 *Meaning and Speech Acts Volume 1: Principles of language use* Cambridge University Press. 久保進 監訳 渡辺扶美枝・西山文夫・渡辺良彦 訳 1997『意味と発話行為』ひつじ書房
 Vanderveken, D. 1994 *Principles of Speech Act Theory*. Univ. of Quebec at Montreal. 久保進 訳 1995『発話行為理論の原理』松柏社